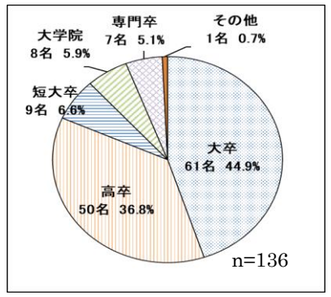
調査報告

2021 年 新 入 社 員 意 識 調 査

2021 年 6 月
一般社団法人 富山県経営者協会

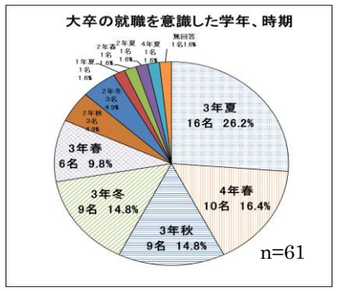
当協会が主催する「新入社員合同研修」の参加者を対象に、2012 年より「新入社員意識調査」を実施している。今回は参加者 136 名（37 社より男性 89 名、女性 47 名）のうち全員から回答を得た。（調査日：2021 年 4 月 14 日・21 日）
※2020 年度はコロナ禍により本研修は未開催のため、2019 年度を比較対象とした。

今回の参加者の構成は、「大卒」61 名(44.9%)がもっとも多く、次いで「高卒」50 名(36.8%)、「短大卒」9 名(6.6%)、「大学院」8 名(5.9%)「専門卒」7 名、その他(中途)1 名であった。

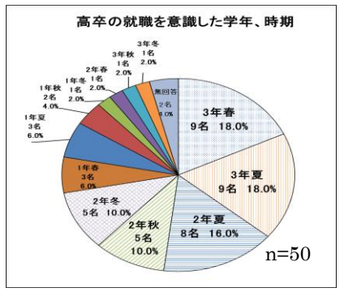


問１．　あなたはいつから就職を意識していましたか。該当する学年・時期を教えてください。（新項目）

「大卒」では、「3 年夏」がもっとも多く、16 名(26.2%)、次いで「4 年春」が 10 名(16.4%)、「3 年秋、冬」が各々9 名(14.8%)であった。



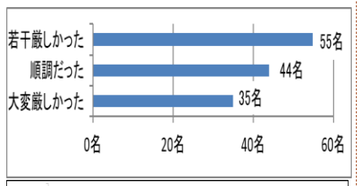
「高卒」では「3 年春、夏」がもっとも多く、各々9 名(18.0%)、次いで「2 年夏」が 8 名(16%)、「2 年秋、冬」が各々5 名(10%)であった。

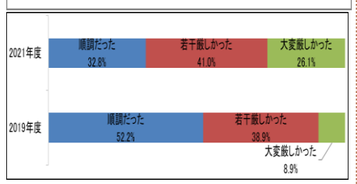


「大学院」では「1 年春夏」と「4 年春」が各々3 名ずつ、「1 年秋」と「3 年夏」が各々1 名となった。「専門卒」では、「1 年秋冬」が最も多く 5 名の回答があり、「短大卒」も「1 年秋冬」4 名の回答があった。

問２．　就職活動を振り返って

「若干厳しかった」55 名(41.0%)と「大変厳しかった」35 名(26.1%)であった。2019 年度と比較すると「厳しかった」割合が高くなった。一方、「順調だった」が 44 名(32.8%)で 2019 年度と比較すると割合は低くなった。

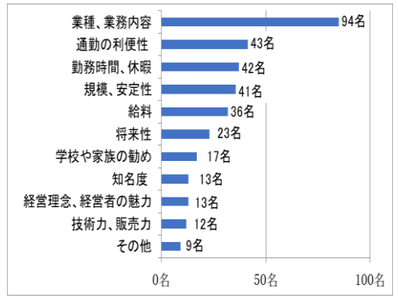




※参考：2019 年度「順調だった」52.2%
「若干厳しかった」38.9%
「大変厳しかった」8.9%

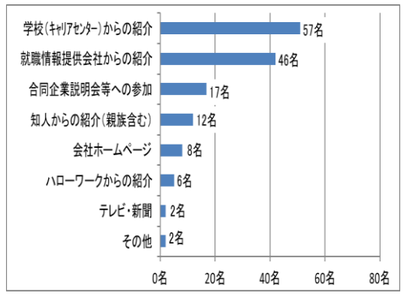
問３．就職先を選ぶ際に重視した点は？（３つまで選択可）

「業種、業務内容」が 94 名と最も多く、9 年連続のトップ。以下やや差があって「通勤の利便性」43 名、「勤務時間・休暇」42 名等が続いている。



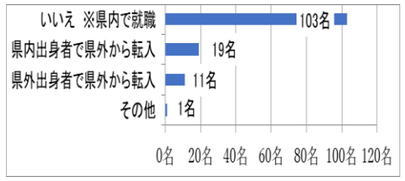
問４．就職先の求人情報をどのツールで知ったか

「学校からの紹介」が 57 名と最も多く、以下「就職情報提供会社からの紹介」46 名、「合同企業説明会等への参加」が 17 名と続く。ハローワークの利用が少ない結果となった。



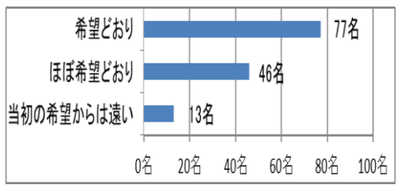
問５．就職にあたり、県外から転入してきたか

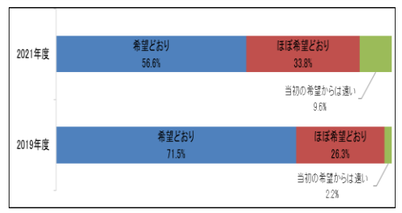
「いいえ」が 103 名と最も多く、U・I ターンは少ないことが伺える。



問６．就職した企業は？

「希望どおり」が 77 名(56.6%)、「ほぼ希望どおり」が 46 名(33.8%)の回答であった。両者を合わせると 123 名(90.4%)である。また、13 名(9.6%)が「当初の希望からは遠い」と回答し、こちらも低い割合であった。

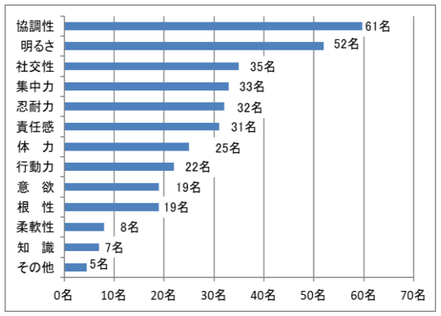




※参考：2019 年度「希望どおり」71.5%
「ほぼ希望どおり」26.3%
「当初の希望からは遠い」2.2%

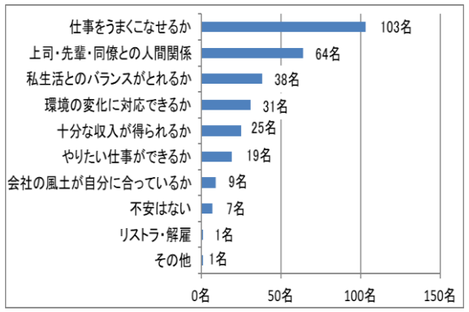
問７．社会人としての自身のセールスポイントは？（３つまで選択可）

「協調性」61 名、「明るさ」52 名の 2 項目が 50 名以上であった。次に「社交性」、「集中力」などが続いている。



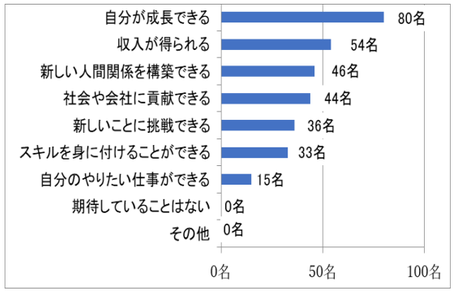
問８．社会人生活に対する不安（３つまで選択可）

「仕事をうまくこなせるか」が 103 名、「上司・先輩・同僚との人間関係」64 名と続いている。「私生活とのバランスがとれるか」38 名よりも、仕事と人間関係を不安に思う項目が多くなっている。「不安はない」は 7 名だけであった。



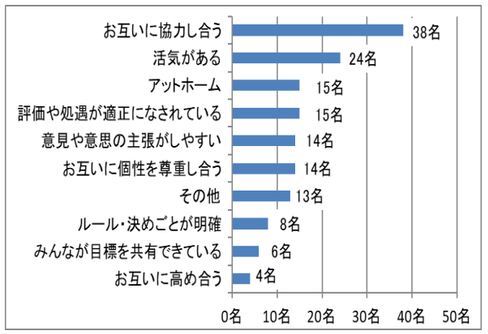
問９．社会人生活での期待（３つまで選択可）

「自分が成長できる」が 80 名、次いで「収入が得られる」54 名までは 2019 年度と同じ傾向、「新しい人間関係を構築できる」46 名、「社会や会社に貢献できる」44 名などが続いている。



問１０．あなたはどのような特徴を持つ職場で働きたいですか。（１つだけ選択可）（新項目）

「お互いが協力し合う」が 38 名、次いで「活気がある」24 名、「アットホーム」「評価や処遇が適正になされている」は各々15 名と続き、元気のある明るい職場環境が好まれる。

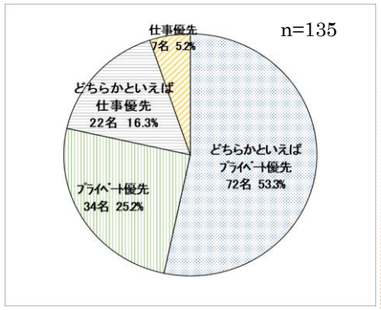


（裏面へ続く）

(表面の続き)

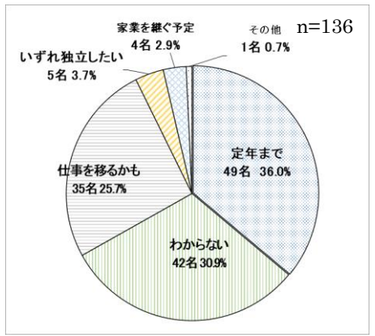
問１１．仕事とプライベートについて

「どちらかといえばプライベート優先」が 72 名(53.3%)と圧倒的に多く、「プライベート優先」の 34 名(25.2%)と合計すると 78.5%の新入社員がプライベートを優先したいと考えている。「仕事優先」と回答したのは 7 名(5.2%)であった。



問１２．今の就職先でいつまで働こうと思いますか？

「定年まで」が 49 名(36.0%)で最も多かった。一方、「わからない」42 名(30.9%)、「仕事を移るかも」35 名(25.7%)と続いている。「仕事を移るかも」、「いずれ独立したい」、「家業を継ぐ予定」を合計すると 44 名(32.3%)が今の就職先を「いずれ離れる」としている。

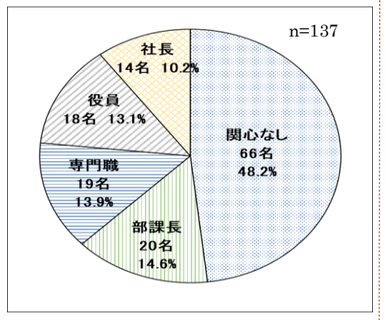


※参考：2019 年度「定年まで」58.9%
「仕事を移るかも」14.4%
「いずれ独立したい」1.7%
「家業を継ぐ予定」2.8%

問１３．自身の昇進について、どこまで目指しますか？

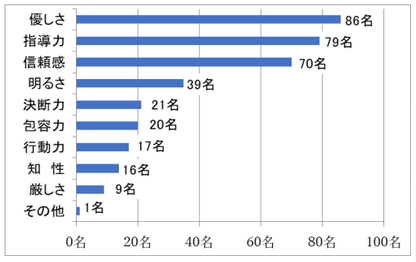
「昇進にあまり関心がない」が 66 名(48.2%)で最も多く、以下「部課長」20 名(14.6%)、「専門職」19 名(13.9%)、「役員」18 名(13.1%)と続いている。

※参考：2019 年度「関心なし」28.1%



問１４．上司に求めるものは？（３つまで選択可）

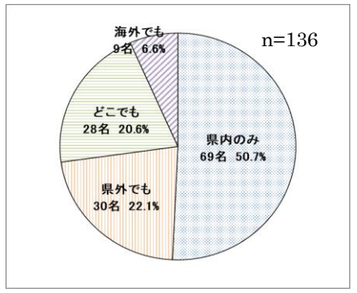
「優しさ」が 86 名で最も多く、次が「指導力」79 名、「信頼感」70 名で続いている。例年どおりの 3 項目が高い結果となった。



問１５．働く場所について自分の考えに最も近いのは？

「富山県内でずっと働きたい」が 69 名(50.7%)で最も多く、「富山県内だけでなく県外でも仕事をしてみたい」30 名(22.1%)、「働く場所にはこだわらない」28 名(20.6%)に続く。「機会があれば海外でも」は 9 名(6.6%)、4 年連続で 5%超であった。

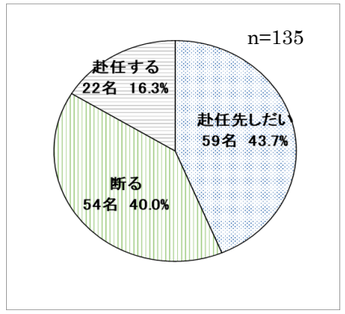
※参考：2019 年度「県内のみ」59.2%



問１６．将来、あなたに海外転勤の打診があったら？

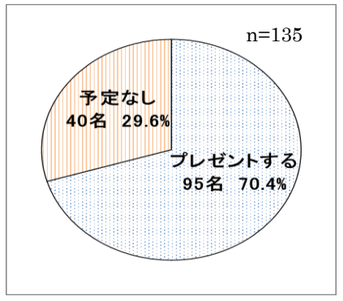
「国・地域しだいで検討する」が 59 名(43.7%)で最も多かった。「断る」は 54 名(40.0%)、「国・地域を問わず赴任する」は 22 名(16.3%)であった。

※参考：2019 年度「断る」36.3%



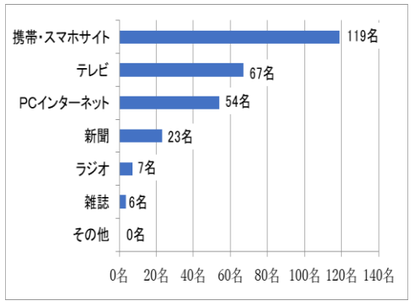
問１７．最初の給料で家族にプレゼントをしますか

「プレゼントすることを考えている」が 95 名(70.4%)で、「特に予定はない」の 40 名(29.6%)を大きく上回り、ほぼ例年並みの回答であった。



問１８．日常的な情報収集メディアは？（３つまで選択可）

「携帯・スマホサイト」が 119 名(43.1%)で、6 年連続のトップ。2012 年調査時は 4 位であったが、飛躍的に伸びている。次いで、「テレビ」67 名(24.3%)、「PC インターネット」54 名(19.6%)が続いている。紙による情報収集の比率が減少傾向にある。



＜まとめ＞

・今年度の新入社員の就活の状況は問２および問６より、就職が厳しかったものの、希望した企業へ就職できたことが伺えた。問１１の「仕事を優先」する意識や、問１２の「定年まで勤めたい」という意識は薄いと考えられる。

・求人情報のツールは問４より、通っている学校（ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ）からの紹介が多いこと、問５より県内での就職が多いことがわかった。

・以上より、今年度はコロナ禍であっても希望する企業への就職が叶った傾向が強く、新入社員の仕事に対する期待値は高い状況にあると考えられる。一方、世間では３年で３割～４割が離職すると言われている。依然として企業では人手不足が続いている状況下、人材流出による痛手は大きいことから、早期離職を防ぐ取組みが必要不可欠といえる。

以　上